

# 中国の高校生にとっての海外留学

—高級中学国際部の教育課程に焦点を当てて—

## Study Abroad for High School Students in China:

## Focus on International Divisions of Senior High Schools

大阪樟蔭女子大学学芸学部 小野寺 香

ONODERA Kaori

(Faculty of Liberal Arts, Osaka Shoin Women's University)

キーワード：中国、国際部、海外留学

### はじめに

昨今のグローバル社会の進展とともに、さまざまなモノやサービス、さらに人の移動が増加してきている。留学生数も近年顕著に増加してきており、2013年には自国以外の高等教育機関で学ぶ留学生が400万人の大台を超えた<sup>1</sup>。このうちアジアの学生が53%を占めており、なかでも最大の留学生送り出し国が中国である<sup>2</sup>。一方、最大の留学生受け入れ国はアメリカであり、2013年には世界の留学生の19%を受け入れていることになる<sup>3</sup>。そのアメリカでも中国人留学生の割合は高く、例えば2014年には30万4,040人であり、留学生総数の31.2%までも占めるに至っている<sup>4</sup>。これだけの数の中国人がアメリカへと留学する要因はさまざまであるが、中国の1点を競う大学入学試験が受験生に過度な精神的負担を与えていること<sup>5</sup>、経済発展によって子どもを海外へ留学させるだけの経済的余裕のある中流層が増加したこと<sup>6</sup>、アメリカの高等教育機関の方が質の高い教育を受けられると考えていること、創造性や批判的思考力を修得するのに適切であると考えていること等が挙げられている<sup>7</sup>。また、学士課程段階でアメリカの高等教育機関へ留学する中国人の数が増加してきていることは以前から指摘されており<sup>8</sup>、2009年の教育部（日本の文部科学省に相当）による調査によれば、高級中学（日本の高等学校に相当）卒業生で国内の大学入学試験を放棄した者のうち、21.1%は海外の大学への進学を理由として回答したという<sup>9</sup>。そして、2014年にはついに学士課程段階での留学生数が大学院段階（修士・博士課程）のそれを上回ってきている<sup>10</sup>。

こうした学士課程段階の留学に対するニーズが高まってきたため、都市部の一部の高級中学は「国

際部」という組織を設置してそれに対応している。そこでは、近年日本でも注目される国際バカロレア (International Baccalaureate、以下 IB) やアメリカの高大接続プログラムであるアドバンスト・プレースメント (Advanced Placement、以下 AP) を実践している<sup>11</sup>。IBは、「言語」、「科学」、「数学」、「芸術」等の6つの科目群から1科目ずつ履修することに加え、生徒自身が課題を設定する「課題論文 (Extended Essay)」、学際的な観点から個々の学問分野の知識体系を検討する「知識の理論 (Theory of Knowledge)」、学問以外の生活や地域に根ざした奉仕活動による経験や共同作業による協調性を重視する「創造性・活動・奉仕 (Creativity, Action, Service)」を履修する必要がある<sup>12</sup>。IBで生徒は二年間でこうした多様な科目をバランスよく履修することができ、さらにそこでの教授言語は基本的に英語であるため、グローバル人材育成という観点からも適切な教育プログラムとして中国でも注目されている<sup>13</sup>。一方、APは大学1-2年次向けに開設される授業内容と同水準の科目を高校生が高校で履修し、同科目に関する統一試験の結果が優秀であれば、それが大学の単位として認定されるアメリカ生まれのプログラムであり、2011年には3,300校の大学がその成績に応じて単位認定している<sup>14</sup>。APには、「言語」、「数学」、「歴史」、「科学」等から「芸術」や「音楽」まで、多様な36科目について基準となるカリキュラムが用意されており、その中から高校は開設する科目を選択する。また、高校が開設する科目から生徒は自らの関心に基づき、自由に選択履修することになる。したがって、制度上は1科目のみの履修も可能である。

中国の高級中学でこうしたプログラムを履修することによって、高級中学卒業後の留学を有利にするために「国際部」への入学を希望する生徒は非常に多い。ただし、「国際部」はあくまでも中国の高級中学であることに鑑みれば、そこでは中国の教育部が規定する教育課程を履修する必要があることは言うまでもない。本稿では、IBやAPと中国国内の教育課程の関係に着目し、「国際部」において生徒の留学を促す要因について検討を加えることにしたい。

### 中国の高級中学の卒業要件

上述のように、「国際部」は中国の高級中学として教育制度上位置づいているため、まずは中国の高級中学の教育課程について言及する。1980年代まで、中国の教育課程といえば全国共通の画一的教育課程と表現されてきたが、1990年代以降のそれは、この点を改革すべく「多様化・個性化」をスローガンとして進められてきた。現在の中国の高級中学の教育課程は、「必修課程」、「選択Ⅰ」、「選択Ⅱ」という三つに区分されている。そのうち、「必修課程」は「言語と文学」、「数学」、「人文と社会」、「科学」、「技術」、「芸術」、「体育と健康」、「総合実践活動」という八つの領域に分かれているが、各領域には複数の科目が設定されている。例えば、「言語と文学」には「国語」と「外国語」の二科目、「人文と社会」には「思想政治」、「歴史」、「地理」の三科目、「科学」には「物理」、「化学」、「生物」の三

科目が含まれていて、こうした各科目に関して修得単位数が規定されており、それらの合計が116単位となる<sup>15</sup>。

一方、「選択Ⅰ」には「必修課程」の内容をより発展させたもの、例えば理系であれば「物理」や「化学」等が含まれ、「選択Ⅱ」には地域や学校の状況、生徒の関心等を考慮した内容が含まれる。実際、「選択Ⅱ」には学校が独自に開設できる「学校課程」が設けられている<sup>16</sup>。また、規定上は、「選択Ⅱ」から最低6単位を修得し、「必修課程」の116単位と合わせて合計で144単位の修得が必要とされているが、実際には学校側が生徒の修得単位数を144単位以上に設定することで全体の30%を「学校課程」に充てる場合もある<sup>17</sup>。このように、教育課程に関する学校側の管理自主権が強調され、実質的に裁量が非常に大きいことがまず指摘できる<sup>18</sup>。

次に、中国では、高級中学を卒業するにあたり、上述の教育課程の履修に加え、「会考」の受験とそれに合格することが必要とされる場合がある。この「会考」とは、「必修課程」について規定単位を修得した生徒を対象とし、各科目の基礎的内容の習得状況を確認する統一試験であり、全試験科目で合格することが高級中学卒業資格取得の主たる要件となっている<sup>19</sup>。この「会考」に関する規則は省や直轄市ごとに異なり、そもそも「会考」を実施していない場合もあるが、例えば北京市では「国語」、「数学」、「外国語」、「政治」、「物理」、「化学」、「生物」、「歴史」、「地理」の9科目について市統一の「会考」を実施している。また、これらは同じ時期に試験が実施されるのではなく、北京市の場合、高級中学一学年の生徒については「会考」は実施されず、二学年の一学期に「歴史」、「地理」、「物理」、「化学」、二学期には「思想政治」、「生物」の試験を実施し、三学年の一学期に「語文」、「数学」、「英語」について「会考」が実施される<sup>20</sup>。つまり、実質的な卒業は先に見た卒業必要単位数の144単位修得と北京市で統一的に実施される「会考」の全科目合格が必要条件となるのである。

### IBとAPの教育課程上の位置づけ

中国の高級中学を卒業するには、規定された教育課程の履修に加え、地方によっては「会考」の合格が必要であることを前提として、「国際部」におけるIBとAPの教育課程上の位置づけをみてみよう。まず、IBでは生徒は二年間かけて多様な科目をバランスよく履修しなくてはならないが、中国の高級中学は三年制である。そのため、高級中学の一年目はIBを履修するための重要な準備期間として位置づけられ、各校は英語に重点を置いた独自の教育課程を設けている。

IBには多様な科目がバランスよく配置されている点が特徴的であり、そのほとんどの科目で英語を用いた授業が行われる。また、試験内容は主に論述式の筆記試験であるため、生徒にとって負担の大きいものであることは確かであり、したがって「生徒がIB以外に中国の教育課程を全て履修する余裕はない」<sup>21</sup>という。ただし、IBを履修することでこそ、知識に偏らない総合的な力を獲得でき、そのディプロマは多くの国の高等教育機関の入学資格としての性格も有するため<sup>22</sup>、結果的に留学先の

選択肢が広がることになる。ただし、必然的に、中国高級中学の「必修課程」は完全には履修できず、そのため「会考」も受験することが困難となる。「例外」が散見される現在の中国において、「必修課程」を履修せずに中国の高級中学の卒業資格を得ることが100%ないとは言い切れないとしても、王が「教育とは特定の文化的基礎の上に成り立ち、文化の伝承であり」<sup>23</sup>、また謝が「国際教育プログラムを行う際は国家の教育課程と並行して行うべきである」と指摘している<sup>24</sup>ことから、「会考」の受験及び合格することなしに卒業資格を得ることはきわめて困難であると考えられる。

一方、APの特徴は、多様な30科目以上のなかから高校が開設科目を選択し、生徒もそこから自由に科目を選択履修できる点にあり、制度的には1科目のみの履修でも可能である。この点は多様な科目内容のバランスを重視するIBの場合とは大きく異なっており、そのためAPプログラムの履修負担はIBよりも小さいと指摘されることになる<sup>25</sup>。現実的には、アメリカの大学進学を希望する生徒の多くが理系であるので、実際に提供されるのは、「物理」や「化学」等の理系科目である<sup>26</sup>。これらの科目を履修して統一試験を受け、好成績を収めることによって、アメリカの大学に進学していく。

既述のとおり、現在の高級中学の教育課程には、学校が独自に設定できる「学校課程」が含まれている。APは、その「学校課程」として位置づけられ、生徒はAP科目を「必修課程」と並行して履修することが可能となり、したがって「会考」も受験でき、中国の高級中学卒業資格も得ることができるのである<sup>27</sup>。それによって、中国国内の大学進学という選択肢も卒業後の進路の一つとして確保できることになる。

APを導入する「国際部」が多い背景には、当然アメリカ高等教育の研究水準の高さを理由として、アメリカ留学希望者が多く存在していることも挙げられるが<sup>28</sup>、履修科目数や時間数について制限が設けられておらず、その利便性から中国の高級中学では最も受け入れやすいものだと判断されるからである<sup>29</sup>。中国の教育課程を履修しつつ、効率的に留学の準備を行うことが可能となるのがAPであるといえよう。

## おわりに

中国の「国際部」では、生徒の円滑な留学を促すためにIBやAPを主に導入しているが、プログラムの性格上、前者は中国の教育課程との共存が困難であるが、後者は可能である。確かに、こうした点において、「国際部」にとっては後者の方が実践しやすく、生徒にとっても効率的に履修できるため、留学自体を目的とすれば有効であると言えるだろう。しかし、中等教育としての「幅の広さ」や効果的な「教育接続」という観点から、両プログラムに関して検討することも必要だろう。現在、留学熱が高まっている中国では、本稿で焦点を当てたIBやAPのみならず、他にも多様な海外の教育プログラムが導入されている。複数のプログラムを実践する「国際部」もみられ、留学に至るまでの過程が多様化してきている。こうした状況のなか、今後「国際部」はいかなる目的でどのプログラムを導入

することを選択していくのだろうか。今後も注目していきたい。

- <sup>1</sup> OECD. (2015). *Education at a Glance 2015 : OECD Indicators*, OECD Publishing, p. 352.
- <sup>2</sup> *Ibid*, p. 352.
- <sup>3</sup> *Ibid*, p. 356.
- <sup>4</sup> International Students in the United States (<http://www.iie.org/Services/Project-Atlas/United-States/International-Students-In-US#.V47ZFvmyNBc>, 2016年7月25日閲覧)
- <sup>5</sup> 「重点中学争弁” 出国班” 引熱議」『中国教育報』(2011年4月2日付。)
- <sup>6</sup> Li, W., & Li, Y. (2010). An analysis on social and cultural background of the resistance for China's education reform and academic pressure. *International Education Studies*, 3(3), 211-215.
- <sup>7</sup> Austin, L., & Shen, L. (2016). Factors Influencing Chinese Students' decisions to Study in the United States. *Journal of International Students*, 6(3), 727.
- <sup>8</sup> International Enrollments at U.S. Colleges Grow but Still Rely on China. *The Chronicle of Higher Education*, November 18, 2011. China Props Up Foreign Students' Number in U. S. *The Chronicle of Higher Education*, November 19, 2010.
- <sup>9</sup> 「放棄高考選択留学高中生越来越多」『中国教育報』(2010年7月28日付。)
- <sup>10</sup> IIE Releases Open Doors 2015 Data (<http://www.iie.org/Who-We-Are/News-and-Events/Press-Center/Press-Releases/2015/2015-11-16-Open-Doors-Data#.V47cHPmyNBc>, 2016年7月25日閲覧)
- <sup>11</sup> 翁燕文「全球化背景下的國際高中課程述評—以IB課程、AP課程為例」『宁波教育学院學報』第4期、2008年、30—33頁。
- <sup>12</sup> 吉田孝「國際バカロレア・カリキュラムの概要」『國際バカロレア—世界が認める卓越した教育プログラム』明石書店、2007年、22 - 30頁。
- <sup>13</sup> 徐士強・高光「普通高中面向境内学生開設國際課程的現狀、問題與建議—以上海為例」『教育發展研究』2012年第6期、12—13頁。
- <sup>14</sup> Setting an AP Credit and Placement Policy (<https://aphighered.collegeboard.org/setting-credit-placement-policy>, 2016年7月31日閲覧)
- <sup>15</sup> 付宜紅(編)『普通高中課程建設与管理』北京師範大学出版社、2010年、277頁。
- <sup>16</sup> 魏国棟・呂達(編)『普通高中新課程解析』人民教育出版社、2004年、89頁。
- <sup>17</sup> 小野寺香「中国の高級中学における國際化の理念と実態—國際部の制度特質に着目して—」『大阪樟蔭女子大学研究紀要』第5巻、2015年、99頁。
- <sup>18</sup> 付宜紅(編)『普通高中課程建設与管理』北京師範大学出版社、2010年、3頁。
- <sup>19</sup> 「關於普通高新课程会考制度改革的意見」(北京教育考試院 <<http://www.bjeea.cn/html/hk/hkzc/2010/0907/13085.html> >2016年7月20日閲覧)
- <sup>20</sup> 同上。
- <sup>21</sup> 小野寺香、前掲論文「中国の高級中学における國際化の理念と実態—國際部の制度特質に着目して—」、100頁。
- <sup>22</sup> 徐輝「國際学校和國際學校課程述評」『教育理論与实践』2001年、43頁。
- <sup>23</sup> 王軍「世界跨文化教育理論流派綜術」『民族教育研究』第3期、1999年、66—73頁。
- <sup>24</sup> 謝艷珍「中外合作高中教育双軌制運行模式的可行性研究」『遼寧教育研究』第4期、2005年、20—21頁。
- <sup>25</sup> 唐盛昌・李英(編)『高中国際課程的实践与研究』上海教育出版社、2011年、64頁。
- <sup>26</sup> 小野寺香、前掲論文「中国の高級中学における國際化の理念と実態—國際部の制度特質に着目して—」、100頁。
- <sup>27</sup> 同上。
- <sup>28</sup> 唐盛昌・李英(編)、前掲『高中国際課程的实践与研究』、65頁。
- <sup>29</sup> 小野寺香、前掲論文「中国の高級中学における國際化の理念と実態—國際部の制度特質に着目して—」、100頁。